

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成26年度分）

団体名：与謝野町

プロジェクト名	自然と安全を守るまちの基盤づくりプロジェクト		実施期間	平成23年度～平成29年度	テーマ	まちの安全・安心	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>平成18年3月の3町合併により、当町は鬼退治で有名な緑深い大江山から、日本三景の一つ天橋立を望む阿蘇海へと至る広い町域を有し、その町域を南北に貫くように流れる野田川流域に美しい田園地帯が広がる、自然豊かな町・与謝野町となった。</p> <p>近年は水質の悪化や汚泥の堆積等の荒廃がみられる阿蘇海の浄化が課題となっているが、これは阿蘇海周辺だけでなく野田川流域全体の問題であり、課題解決のためには行政だけでなく全町民で環境保全に取り組む必要がある。</p> <p>また、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に起因する東日本大震災は、大規模な火災や津波、原子力発電所の事故等を伴う未曾有の大災害となり、木造住宅の密集地や先述の阿蘇海を有し、また福井県高浜原子力発電所から30km圏付近にある当町でも防災・防火体制の見直しや強化を迫られることとなった。</p> <p>加えて当町は、合併前の平成16年に台風23号による被害を受けており、特に旧加悦町地域での被害は甚大であった。近年は台風だけでなくゲリラ豪雨といわれる予測困難な集中豪雨に見舞われることもあり、台風23号の経験を活かし、住民への情報伝達手段の確立等、災害時に迅速に対応できる体制づくりが課題となっている。</p>							
プロジェクトの目的及び概要	<p>住民の暮らしを支える「自然と安全を守るまちの基盤づくり」として、美しい自然環境の保全と循環型社会の形成に向けた取組によって、水清く、緑豊かで、空気の澄んだ良好な環境を守るとともに治山治水や防災体制の強化によって災害に強いまちを目指す。</p>							
	総事業費（千円）	188,909	本年度事業費（千円）	21,248	交付金額（千円）	6,128		
プロジェクトを構成する事業の平成26年度事業実績(出来高数値等)								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要			主な実績（出来高数値等）		
市町村 実施事業	消防施設整備事業	関連事業	地域防災の基盤となる消防施設の整備。			消防ポンプ車等3台更新、防火水槽新設2基、消火栓整備5基など。		
	地球温暖化対策事業	関連事業	地球温暖化対策のための施設整備。			本庁舎・加悦庁舎LED電灯交換、わーくばる太陽光発電等設備設置工事実施設計業務委託など。		
	防災行政無線施設整備事業	関連事業	防災行政無線の拡充・整備。			平成22～24年度にデジタル化整備した防災行政無線の活用と維持管理。		
	最終処分場施設等整備事業	交付対象事業	最終処分場の施設整備。			焼却炉工事など。		
	災害対策資機材整備事業	交付対象事業	災害に備えた資材整備。			備蓄用非常食（アルファ米わかめごはん）2,800食、毛布120枚。		
	救命救急資材整備事業	交付対象事業	公共施設内のAED整備。			AED（自動体外式除細動器）本体40台、収納ケース4台。		
	野田川衛生プラント整備事業	関連事業	し尿処理施設の整備。			各種施設設備改修・補修など。		
住民協 働事業	地域防災計画策定事業	交付対象事業	地域防災計画策定事業。			地域防災計画加除修正など。		
	ハザードマップ策定事業	交付対象事業	災害時の危険個所周知のためのマップ作成。			洪水・土砂災害ハザードマップ印刷など。		
	消防防災フェア開催事業	関連事業	町消防団主催のイベント。			本年度は実施していない。 ※各年度の実施		
	地震につよい住まいづくり推進フェア開催事業	関連事業	耐震対策をテーマにしたイベント。			11月23日に宮津市で実施、約500名来場。		

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成26年度分）

団体名：与謝野町

住民が取り組む事業	阿蘇海水質環境浄化事業	関連事業	住民による阿蘇海の環境浄化事業。	環境浄化事業、取組啓発、学習会など。	
成果指標①	成果指標の目標数値	一人当たりのごみの減少 (H23: 923g/人・日⇒H29: 871g/人・日)		成果指標の実績値 (平成27年3月31日時点)	平成26年度891g/人・日
	成果指標の達成状況	○	(左の理由) 昨年度と比較し、40g/人・日減少した。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	(理由)	—	(時期)	—
成果指標②	成果指標の目標数値	常習浸水地域の解消 (H23: 5か所⇒H29: 0)		成果指標の実績値 (平成27年3月31日時点)	平成26年度3か所
	成果指標の達成状況	○	(左の理由) 本年度、新たに1か所事業を実施する。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	(理由)	—	(時期)	—
成果指標③	成果指標の目標数値	防災訓練参加者数の増加 (H23: 9,892人⇒H29: 13,000人)		成果指標の実績値 (平成27年3月31日時点)	平成26年度0人
	成果指標の達成状況	—	(左の理由) 平成26年度は防災訓練未実施。H27.3実施予定分をH27.10に実施変更したため。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	(理由)	—	(時期)	—
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果 ※未達成の場合も効果を記載すること	東日本大震災を踏まえ、津波や原発事故などによる備えのための防災訓練を行ってきた。住民も防災に関する意識は高くはなっているが、防災訓練への参加者数増加には結びついていない。H27.3実施予定の防災訓練（地震・津波想定）をH27.10に実施変更（風水害想定）とした。 今後も更なる防災訓練の充実・広報活動等に努めていく必要がある。 ※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方策についても記載すること。				

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成26年度分）

団体名：与謝野町

本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	交付対象事業で安心・安全な環境整備を行い、関連事業において住民が主体となる防災開発の事業を実施した。特に啓発事業に関しては、住民に身近な消防団員等が啓発を行うことで効果があった。
	府と市町村等との連携に資する成果	京都府の補助金を有効的に活用し地域防災の基盤となる消防施設を整備することで、安心・安全なまちづくりの実現に寄与している。
	住民の自治意識を高める成果	避難所等、災害時に住民の利用が想定される場所の整備を行い、住民が自ら避難行動を行う際に一助となることが期待できる。
	リーディング・モデル成果	全町に拡張されるCATV事業による加入者各戸への「FM告知放送端末機」の整備（本事業とは別事業）と連携させた、一括統制された防災行政無線システムを導入し、災害に強い安心・安全なまちづくりの実現を目指す。
	広域的波及成果	防災行政無線の整備など、合併後は地域ごとにまちまちだった防災体制の統一が図れてきている。 また、自然環境の分野でも阿蘇海周辺のみならず、野田川流域全体で環境保全に努める気運が醸成されてきている。
	行財政改革に資する成果	消防施設の改修整備などにより施設の長寿命化を図っている。